

「国語学習 Can-do リスト」を使用される先生へ

【実施概要】

1 国語学習 Can-do リストとは

「国語学習 Can-do リスト（以下、国語 Can-do）」とは、国語科で行われる活動を、「～できる」という形式で記述し、学齢ごとの目安となる国語能力を示したものです。文部科学省が定める学習指導要領*と小学校から高等学校までの国語教科書（東京都での採用校数が多いもの）を参照して作成されています。

2 国語 Can-do の自己評価の目的

国語 Can-do は、記載された能力記述文について、生徒自身が「日本語でできるか」「母語でできるか」を自己評価するものです。以下のような目的で使用することを想定しています。

(1) 教育関係者による活用

- ◆ 生徒が日本語でできることと母語でできることを視覚化し、生徒のもつ国語能力を把握する。
- ◆ 定期的な調査の実施により生徒の国語能力の変化を観察する。
- ◆ 個別指導等において、記述文を到達目標として設定し、授業を行う。
- ◆ 個別指導等による支援が必要かどうかを判断する補助資料として活用する。

(2) 生徒による活用

- ◆ テスト以外の方法で自分ができていることを知る。
- ◆ 「能力記述文＝目標」であるため自分で目標を設定する際の指針や目安としたり、能力記述文の内容を意識して学習に取り組む。
- ◆ 定期的な調査の実施により能力の変化を観察し、学習の動機付けにつなげる。
- ◆ 母語でできるかどうかを問われることで、母語の力や価値に意識を向ける。

3 生徒への実施手順

① 生徒に実施目的を伝える（調査用紙の表紙を一緒に読む）

自己評価となりますので、国語Can-do リストを配布するだけでは有効な結果が得られません。必ず実施の目的を伝えた上で、正直に答えるよう伝える必要があります。

② 実施する

- ・テストではありませんので時間制限はありません。学校内で実施する場合は 30 分が目安です。
- ・設問の意味や回答方法が分からない場合は、適宜説明してください。

③ 自己評価の結果を生徒へフィードバックする

- ・生徒のモチベーションアップにつながるようなフィードバックができるといいでしょう。ポイントを絞って、生徒が興味を示すような工夫が必要です。

例) 技能別の自己評価の平均をグラフ化したり、他の入学生や、過去に実施したことがある場合はその結果と比較したりして示す。

例) 得意なことや苦手だと思われる記述文をマークして返却する。

- ・同様の調査を定期的に行い、結果を比較していくとモチベーションのアップにつながるでしょう。

※『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』、『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』、『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 国語編』を指します。